

旅、あちらこちら

俳句、写真、文
千葉 俊雄
筆、
松島 澄氏

23th genki 展出品
(2019.9.10~18、
於、練馬区立美術館)



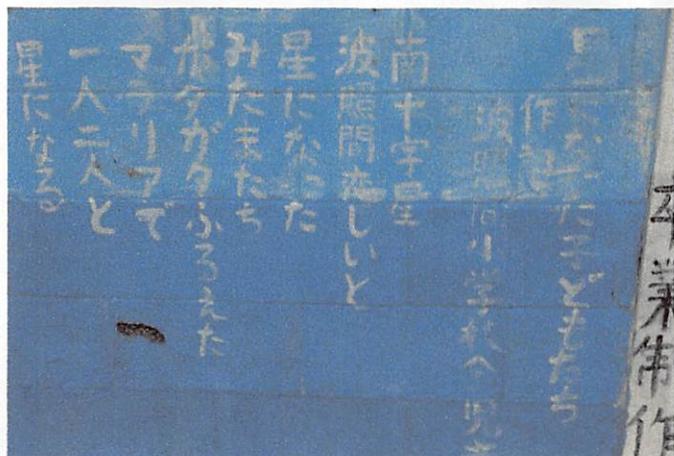
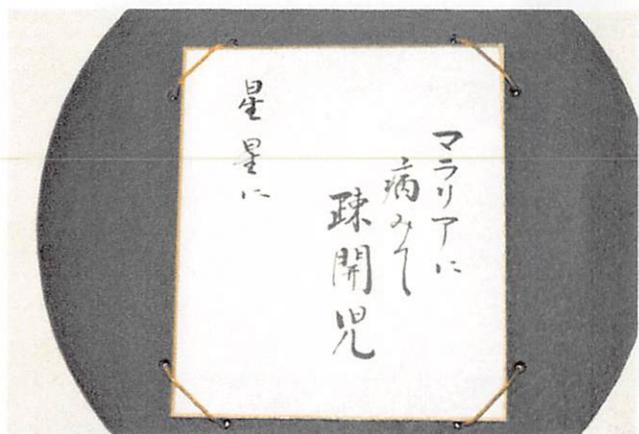
(北海道、層雲峡)

が、割、が。別
 岩節をしすの滝、底口すは
 溶状晶 食で理のの 川滝ま滝
 た板結 浸峽節もも星、いの
 れ、い が雲が筋な流 く為て星
 流理し れ層水幾的と 多いっ流
 、節正 流が下る表) がきなど
 し状則 のの地ち代右。量大く滝
 火柱規 川た、落の真す水用低の
 噴、る。狩っはれそ写では作り河。
 がにれた石なに流、()滝食よ銀す
 山時ぼしへと峽られ滝左の浸滝、で
 雪た呼まこ谷雲からの真星るのお系
 大えとりそい層目見河写流削河な水
 冷理作 深 れが銀(を銀の



(山形県、あつみ温泉)

日本 きくく年と、の
 日み 吹低 亡た1 る海
 はつ ががをいの いが
 私あ 風雲 内だみ て日
 ののの 身たし 見入
 日県。西色のい悲を、
 晦形た北鉛。人て、海れ
 大山し、す二してく晴。「りどどに
 の、まはくまはくれ 巻がた、ぎはは望
 年るい海高い私しさ 逆雲しとよ日年希
 8 あて本がて、親界 くのまふを初1が
 1 にき日波め年に他。な色し時頭のるみ
 0 いにの、込の更がた気鉛らのが日始し
 2 浴泉冬けちこ、僚し何然照こ名明ら悲。
 海温 つ立 し同で 突を 書か た



《近詠三句》

「故 田中 啓之先生に捧ぐ」

朋逝きぬ大夕焼の一期かな 俊

々ぶの 鼻は、ろ、だ。
島呼そ とへるをち。はう
のとも 目島い用もい間よ
端島島 の)て小。な分た
南諸) mふし、るい数つ
邦)て 0ゆ復らめはのま
本まも 0(往か止人間止
、しお 4布がだをうのが
どきり ら由車物み言)間
なさい かる牛動歩をと時
島(。島あ水は、句し、
垣島表だ表にを牛時文(で
石先西つ西先瀬水す、尿る
を 一 の浅 足ん ま

(注、句中の「子」は、教え子の事です。)

子は獣区北の大地の夏に燃ゆ俊

へ佐藤 一音君へ

三陸を繋ぐ鉄路や雲の峰 俊



洋つ前名。鉄R
 平む陸国つす陸J陸盛通りは分
 太(陸)3で三を=字。スを与え
 の奥、部に方、間じ)、文たア間
 方陸(県)央上び月石く中、しり田
 地、手(中)の呼3釜(陸)ぶま北野
 北国(岩)県)た)・慈=結り道中
 東の(城)陸し年古久こをな鉄陸
 、つ中宮「冠9宮、や)に陸、鉄
 は3陸~字を1線しみ前」三慈
 との、部文」0田管(陸道、久
 」名)南る三2山移古=鉄時で、
 陸国県南る三2山移古=鉄時で、
 三旧森手通の年J経とか三災5。線
 「の青岩共国今はら)さ「被か業沿た今
 側=(に)の道か奥(の)僅開としは



客のしにて
 光寄興といれ
 観び復手大さ
 、呼、い、待ま
 くをせ担て期いす(

年 1993
 日 03
 朝 23
 刊 日 夕

